

# 中国人虐殺事件関連現地フィールドワーク

## ① 亀戸警察署

関東大震災の起きた頃、吾嬬町、亀戸町は日本の若い労働運動の活動地域であった。亀戸駅のすぐ北に亀戸警察署があった。ここに王希天が拘束されていたが、それだけではなく、ここは関東大震災時の朝鮮人、中国人、そして若い労働組合活動家の大量検束と虐殺の拠点であった。「三日にも500人以上を検束、ピークの四日夜には1300人を超えていた」

(『朝日新聞』1923年10月11日)。そして当時の朝鮮留学生の調査によれば、亀戸警察署演武場で騎兵13聯隊(少尉田村春吉)により86人が刺殺されている。(大韓民国臨時政府機関紙『独立新聞』1923年12月5日)、また、川合義虎(南葛労働会)、平沢計七(純労働者組合：僑日共済会のすぐ近くに住んで活動していた)ら若い労働組合活動家10名が虐殺された(第二次)亀戸事件)。その前には、警察に反抗的であった4人の自警団員も殺されている(第一次亀戸事件)。

亀戸警察署署長の古森繁高は、こうした警察署の中だけではなく、管轄区内での大量虐殺の陣頭指揮をとった。

浄土宗赤門浄心寺(江東区亀戸4)には、「亀戸事件犠牲者之碑」がある。



(上下)亀戸警察署の当時と現在(現在はこの辺り。その前は太陽神戸銀行があった)  
(左)亀戸警察署から出る亀戸事件遺族(『国民新聞』1923年)  
(右)古森署長  
浄心寺の碑

